

会報  
YASU安来節  
GI  
BUSHI

発行所 安来節保存会

☎ 692-8686  
島根県安来市安来町878-2  
TEL 0854-23-8220  
FAX 0854-23-8221

# 第3回 全国民謡サミット・民謡の祭典

## ～日本の文化遺産〈民謡〉が大集結～

### 〈安来大会〉

開催日：平成13年11月24日(土) 会場：安来市民体育館 入場料：2,000円(中学生以下)  
(は無料)

## 日程

11月23日(金)  
(サミット関係者)

16:00～17:00	サミット理事会・総会
17:00～18:00	みんようミーティング
18:30～20:00	交流会

場所 会館とかみ

11月24日(土)

10:00～11:00	保存会90周年記念式典 場所 安来市民会館 ～民謡の祭典～
13:00～14:00	記念講演 神津善行氏

14:00～17:00 民謡の祭典  
場所 安来市民体育館

## 〈民謡の祭典〉午後2時より (参加民謡団体・唄い手)

民謡名	氏名	民謡名	氏名
江差追分(北海道)	辻 真由美	尾 鶴 節(三重県)	蟹江礼子
南部牛追唄(岩手県)	小松正宏	安来節(島根県)	北村八重子
佐野の越名舟唄(栃木県)	鈴木邦治	正調闇の五本松節(島根県)	勝部哲郎
越中おわら節(富山県)	大谷美保子	出雲追分(島根県)	永見義隆
山中節(石川県)	越前朱美	隱岐しげさ節(島根県)	山本節子
岡崎五万石(愛知県)	夏木利明	久住高原の唄(大分県)	大楠守茂
淡海節(滋賀県)	工藤由紀枝	鹿北茶山唄(熊本県)	永田祐子
鈴鹿馬子唄(滋賀県)	小田克代	日向木挽唄(宮崎県)	児玉久美

## ～ゲスト出演～

## 〈津軽民謡〉

中村 透氏 ◇プロフィール◇

中京地区に於いて本格的津軽民謡を広め、多数のプロの演奏家を育て上げ、暁日本民謡協会より民謡界最高の榮誉である名人位の称号を受けた中村隆志を家元とする津軽民謡の名門名古屋中村民謡会の後継者。津軽三味線名人故藤田淳一氏に師事。暁日本民謡協会の認定三味線教授。中村民謡会会員の三味線の指導と中村隆志家元の専属伴奏として全国各地に出演。平成2年には中国南京市にて、平成6年にはフランス、カナダにて親善公演。津軽三味線の指導家また演奏家として活躍中。

中村 瑞子氏 ◇プロフィール◇

5歳の頃より安来節を習い始め、テレビや各地に出演。昭和59年 安来節保存会の唄、三味線、鼓の3部門最年少師範。昭和60年 津軽民謡に惹かれ、中村隆志氏の内弟子となり名古屋で修行。平成8年 青森県五大民謡大会(青森)優勝。同年 NHKオーディション(東京)に合格。平成10年 「こまつ桜まつり民謡全国大会」優勝。平成11年 (暁)日本民謡協会春季全国大会優勝し、「内閣総理大臣賞」受賞。平成12年 故郷、出雲市民会館にて「中村瑞子リサイタル」を開催。同年 NHKラジオ番組「日本の民謡」に出演。

## 〈沖縄民謡・とぅばらーま(八重山情歌)〉

与那国島の「ショウカネ節」とこの唄は、沖縄民謡の二大名曲とされており、哀調がひしひしと胸に訴えるものがある。現地では、男女で掛け合いで歌い、しかも男声の終わりに女声をかぶせる二重唱の歌い方をしている。よい旋律であり、名曲であるので現在まで歌い継がれてきている。

知念ノリ子氏 ◇プロフィール◇

宮古民謡コンクールグランプリ。ましゅんく節大会チャンピオン。平成13年度とぅばらーま大会最優秀賞。

## ～司会者紹介～

## ◇プロフィール◇

島根県安来市出身(1957年生まれ)。東海大学文学部北欧文学科卒業。エフエム山陰(1986～93)を経て約8年大阪・神戸を拠点に活動。2001年4月より首都圏にて活動中。

◇主な出演番組◆フジテレビ739「プロ野球ニュース」キャスター◆かわさきFM「Jリーグ・川崎フロンターレ」実況◆千葉テレビ放送「夏の高校野球・千葉大会」実況◆スカイバーフェクトTV「阪神タイガース・オリックスブルーウェーブ」実況◆ラジオ関西「レース・ダイジェスト」キャスター◆テレビ東京系列「スポーツTODAY」ナレーター◆Kiss・FM・KOBE「レイティスト・ニュース」キャスター◆テレビ大阪「競艇中継」キャスター等

## ◇プロフィール◇

立教大学社会学部卒業後アメリカにて舞台芸術を学ぶ。平成元年から平成13年4月まで暁日本民族芸能国際交流協会において国内外の民族文化についての活動に携わる。世界の民族楽器によるアンサンブルを編成した「地球の音 民族音楽、新たな展開」の他、文化庁芸術祭主催公演や民族音楽に関するコンサート等の計画・制作を担当。アジアの国々が共にする神話、民話を題材としたアジアの音楽劇「月の夜の物語」(インドネシア・フィリピン・日本3カ国共同制作/平成9年度日本公演、平成10年インドネシア公演)を共同プロデュースするなど舞台芸術の交流を通して、日本とアジア諸国との文化交流につとめる他、邦楽器や声明、民謡などの海外公演を通じて日本の文化を海外に広く紹介する。C.I.O.F.F.(国際民族芸能組織委員会)公式フェスティバルとして、2年に1度アジアを廻り開催されるアジア地域最大のフェスティバル「第3回C.I.O.F.F.アジア民族芸能祭」(平成4年日本開催)の総合プロデュースや2000年夏世界50カ国以上が参加して全国8カ所で開催された「第2回C.I.O.F.F.ワールドフォークロリアード」(世界の民族文化による祭典/4年に1度世界を廻り開催)など民族文化、伝統文化を総合的に紹介、交流するフェスティバルを手掛ける。現在、文化NPO、国際民族芸能組織委員会、文化によるまちづくり、などの活動につとめている。

ところ  
とき  
創立90周年記念式典  
安来節保存会  
平成13年11月24日(土)  
午前10時より

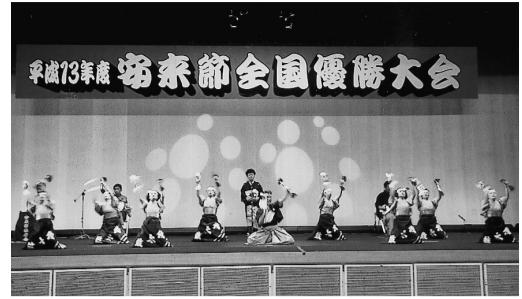
※参加料3千円(民謡の祭典入場料込)が必要です。  
・感謝状の贈呈  
・入賞歌詞の発表・表彰  
など

# ～民謡甲子園～ 平成13年度 安来節全国優勝大会



「平成十三年度安来節全国優勝大会」が去る八月十五日から十七日の三日間にわたり、安来市民体育館で盛大に開催されました。大会初日は、島田一郎安来節保存会会長（安来市長）が、「本年は保存会創立九十周年を迎える記念すべき大会です。皆さん力一杯頑張って下さい。」と挨拶されました。

2級・1級・少年の部（3級・3級・2級・1級・少年の部）で始まり、一日目は初段・二段・三段・准師範、最終日は師範・団体の部があり、各予選会を突破された出場者の皆さん、日頃の練習の成果を一生懸命発揮され、熱唱、熱演が終わるたびに場内からは大きな拍手が送られました。その結果、次のとおり各階級の入賞者が決まりました。



今回初めて試みた銭太鼓の披露  
(出演頂いたチームは以下のとおり)

- 15日・東京支部チーム
- ・本部道場チーム
- 16日・関西支部チーム
- ・浜崎流銭太鼓チーム
- 17日・名和町庄内ピープル会チーム
- ・浜崎流銭太鼓チーム

## — 平成13年度 安来節全国優勝大会 —

### 団体の部

優勝	本部道場	恵 恵子	子 子
唄	森 岩 小 佐 今	治 光 孝 和 淑	子 子
絃	広 佐 池 伯 岡	原 田 真 紀 典	子 子
鼓	西 岩 佐 今	西 岩 佐 今	子 子
準優勝	益 田 支 部	子 り 美 子 男	子 り 美 子 男
唄	福 柴 山 石 城	光 ど 真 紀 典	子 り 美 子 男
絃	湖 陵 支 部	原 田 真 纪 典	子 り 美 子 男
鼓	永 佐 鐘 林 木	西 山 井	子 り 美 子 男
第三位	湖 陵 支 部	き 子 行 朝 生	き 子 行 朝 生
唄	永 佐 鐘 林 木	藤 田 ゆ 典 孝 好 俊	き 子 行 朝 生
絃	神 門 支 部	神 門 支 部	神 門 支 部
鼓	小 今 勝 柳 矢	弘 彰 明 に 恵	男 夫 美 え 子

部門 資格	順位	唄		絃		鼓		踊	
		支部名	氏 名	支部名	氏 名	支部名	氏 名	支部名	氏 名
師範	優勝	関 西	北 村 八 重 子	湖 陵	鐘 推 孝 行	加 茂	富 田 英 好	東 京	棚 橋 保
	準優勝	松 江	二 代 目 高 山 保 子	関 西	北 村 八 重 子	益 田	山 崎 真 由 美	湖 陵	周 藤 伏 子
	第三位	本部道場	佐 伯 一	松 江	岡 田 栄	廣 島	山 本 本 英 三	本部道場	糸 賀 忠 義
獎励賞	本部道場	片 内 岩 加 永	山 藤 美 美	神 米 松 宮 斐	勝 足 喜 堀 山	大 大 津 山 中	谷 野 周 城		
	本部道場	西 西 田 陵	西 岩 智 枝	門 子 江 島 川	多 口 下	東 央 陵 田 益	川 石 坂 藤 市		
	准師範	佐 々 木 木 ぬ ゑ	藤 原 真 千 子	本 部 道 場	角 雅 宏	社 佐	貫 岡 啓 吉	松 江	小 林 顯 二
	準優勝	関 西	藤 原 真 千 子	湖 陵	中 尾 俊 介	門 神 那	今 谷 正 之	東 京	樋 正 男
	第三位	神 門	福 島 倉 功	東 城 陵	新 田 啓 治	賀 社	高 石 杉 博 美 芳	関 門	菊 池 吉 枝
	獎励賞	福 島 中 月 山	禎 洋 俊	鯉 湖 米 子	長 土 渡	大 松 東	山 伯		
	第三位	吉 岡 滿 子	吉 岡 滿 子	本 部 道 場	中 谷 明 子	湖 平 新	鎌 岛 章 二	湖 陵	吾 郷 芳 信
	準優勝	伊 予 道 後	智 咲 子	湖 湖	木 村 洋 次	島 本 美 由 紀	島 佐	東 関 口	阿 部 洋 二
	第三位	神 門	本 田 博 子	大 森 康 次	大 森 康 次	見 波 長	本 部 道 場	大 野 良 雄	大 野 良 雄
	獎励賞	高 山 谷 口 千 千 賀 子	鳥 取 中 奥 宮 宏 弘	本 部 道 場	奥 宮 道	城 琴 佐	藤 治 郎	友 塚 孝 至	友 塚 孝 至
	二段	鯉 城 長 部	千 春	本 部 道 場	永 田 美 由 紀	江 湖	陵 岛 周 藤 絵 梨 香	関 東	千 葉 弘 子
	二段	神 門 永 瀬 文	雄	神 門 門 江	阿 部 三 夫 彦	宮 加 松	島 堀 口 邦 邦	東 江	大 野 千 代 子
	二段	神 門 原 一 明	一 明	松 倉 北 道	安 達 哲 彦	植 塩 永 古	茂 江 沢 道	大 東	友 塚 孝 至
	二段	獎励賞	松 東 古 齋	瀬 尾 里 成	備 宮 永 由 敦	塩 壇 瀬 澄	嶼 里 沢 道	東 江	千 葉 弘 子
	初段	益 東 大 野 久	美 子	神 門 門 子	内 藤 知 美	木 門 美 益	見 佐 本 龍 子	大 部 道 場	内 藤 朋 子
	初段	神 門 留 直	美 子	米 田 中 田	中 美 利 男	中 田 美 利 男	田 沢 三 悠 男	宇 部 道 場	齊 藤 豊
	初段	第三位	神 門 内 藤 知 美	東 京 楠	正 門 壴 壴	高 木 道 場	古 長 一	長 岡 部	津 山 中 央
	初段	獎励賞	米 尾 子 高	原 田 明 中	松 岬 美 奈 子	田 神 岩 德	竹 澄 伸 哲		川 久 保 文 子
1級	優勝	神 門 原 田 徹	美 子	茂 加 門	勝 部 伸 哲	江 道 安 竹	子 伸 哲	小 村 仍 男	
1級	準優勝	米 子 日 野 いくえ	え	関 東 西 澄 伸 哲	澤 正 一	道 岸 安 竹	伸 哲	本 部 道 場	本 行 哲哉
1級	第三位	岡 山 德 森 一	勝 子	江 道 松 岩 崎	間 久 枝	山 田 高 橋	伸 哲	宇 部 道 場	長 岡 光 明
1級	獎励賞	穗 瑞 関 上 久	美 子	道 岸 岩 崎	昭 勝 子	山 田 安 達	彦 伸 哲		
2級	優勝	東 伯 村 川 珠	美 子	本 部 道 場 木 山 真 由 美	倉 靖 太	江 道 古 山	伸 哲	勝 部 伸 哲	
2級	準優勝	廣 島 中 山 田 洋	子	境 港 東 高 崎 美 紀	靖 太	道 岸 松 江	伸 哲	駒 田 美 根 子	
2級	第三位	神 門 和 田 美 奈	子	山 岸 山 影 ヤ ス 子	弘 敏	山 田 吉 田	伸 哲	芝 岡 勝 美	
2級	獎励賞	松 江 長 石 瀬	出 長 奈	城 門 谷 川 美	夫	玉 実 開 岩	伸 哲		
3級	優勝	三 階 坪 田 真 智	子	湖 湖 佐 藤 靖	子	島 岸 佐 井	伸 哲	門 脇 香 代 子	
3級	準優勝	智 頭 竹 内 小 夜	子	湖 湖 佐 藤 靖	子	島 岸 吉 井	伸 哲	湊 敏	
3級	第三位	湖 陵 大 森 久	子	大 田 田 口 琴	子	島 岸 大 関	伸 哲	東 京 高 橋 春 夫	
3級	獎励賞	大 出 松 岡 雲	真 明	真 松 岩 鍋	弘 敏	島 岸 高 山	伸 哲		
初少	優勝	湖 陵 藤 原 愛	実	東 湖 伯 岸	裕 太	島 岸 周 藤	伸 哲	周 藤 翔 平	
初少	準優勝	湖 陵 周 藤 真 理	子	湖 湖 藤 原 愛	美 太	島 岸 周 藤	伸 哲	湖 陵 真 美	
初少	第三位	松 江 松 岸 沢	君	前 沢 藤 原 愛	実	島 岸 周 藤	伸 哲	高 塚 大 輝	
1少	優勝	米 子 三 内 優	里	湖 湖 周 藤 真 理	子	島 岸 周 藤	伸 哲	磯 田 智 志	
1少	準優勝	湖 陵 田 中 美 稔	穂	湖 湖 周 藤 真 理	子	島 岸 周 藤	伸 哲	山 影 拓 馬	
1少	第三位	宍 田 矢 野 綾	子	宍 田 矢 野 綾	子	島 岸 周 藤	伸 哲	藤 原 祥 吾	
2少	優勝	東 伯 松 江 花	結	江 江 齐 藤	惠	島 岸 周 藤	伸 哲	岡 山 平 昌 宏	
2少	準優勝	湖 陵 中 村 華	代	江 江 上 回 有 砂		島 岸 周 藤	伸 哲	真 庭 道 佐	
2少	第三位	松 江 大 野 遥	菜	本 部 道 場 細 田 佳 菜 恵		島 岸 周 藤	伸 哲	藤 原 純 平	
3少	優勝	岡 山 河 本 安 加	里	岡 山 河 本 安 加	里	島 岸 周 藤	伸 哲	真 庭 前 田	
3少	準優勝	関 西 井 崎 賢	人	岡 山 河 本 安 加	里	島 岸 周 藤	伸 哲	藤 原 和 馬	
3少	第三位	広 島 中 本 本 沙	希	岡 山 河 本 安 加	希	島 岸 周 藤	伸 哲	聖 典 稲 田	

宗光賞	西村堂賞	金鳳賞	VLC賞	安来特產品組合賞	安来市觀光協會長賞	足立美術館賞	読売旅行賞	J-Aやすぎ組合長賞	安来市教育長賞	NTT西日本賞	日本海TV放送杯	NTT西日本賞	安来商工会議所会頭賞	山陰放送賞	山陰放送賞
団体の部															

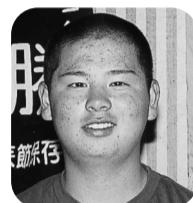
## 少年の部 初段優勝者

部活が忙しく、練習不足で、優勝できるとは思っていなかつたので、とてもうれしかったです。私の祖父が安来節の先生で家が教室だったので、いつしか唄えるようになりました。天国の祖父が一番喜んでくれたと思います。



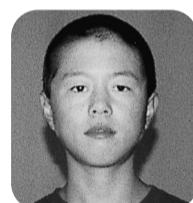
**唄優勝**  
藤原愛実  
(湖陵支部)

僕は、小学校五年生から三味線を始めました。今年中学校三年生ということで、最後だと思いがんばりました。自分の腕を信じて弾いた結果、優勝できました。来年から大人の部に入るのでもう少し頑張ります。



**絃優勝**  
赤坂裕太  
(東伯支部)

昨年に続き踊り、そして初段初めての鼓を優勝出来最高にうれしく、夏休みの行事として一番の思い出です。指導して頂いた先生、支部の皆様のお陰です。少年の部は後一年です。これからも優勝できるようがんばっていきたいです。



**鼓・踊優勝**  
周藤翔平  
(湖陵支部)

大会出場するのが永年の夢であり、まして優勝など夢の夢でした。生まれも育ちも東京、定年退職の年齢、両足膝関節の故障、前年度大会時の失敗等々優勝など及びもつきませんでした。針の穴ほどのチャンスをものに出来たとすれば、それは積み重ねた稽古と研究、それを可能にする持続した精神力だったと思いまます。終わって見れば一里塚というのが今の心境です。

## 師範の部 優勝者



**唄優勝**  
北村八重子  
(関西支部)

今大会で優勝を頂き本当にありがとうございました。前夜、お腹がとうございました。朝も体調が悪く一晩中苦しみ当日の具合が悪く朝食も取れず、今年はダメかも知れないとその時思いました。いよいよ歌の出番が来ました。自分のありつけの力振り絞り歌いました。そんな事態でしたのでとても優勝など頂けるとは思つてもなかつたのです。「二十四番、北村八重子」と呼ばれた時の驚き、嬉しさは…。これも応援して下さった皆様、これまで御指導下さった先生、アドバイスを頂いた諸先生に感謝。そして一番頑張った自分を誉めてやりたいです。これからもよろしくお願い致します。

今度の大会で優勝出来ました事は「今まで生きてきた中で一番嬉しかった」という感じです。ご指導頂いた野坂先生をはじめ、皆様方のお陰と心から感謝し、今後とも益々の精進を期したいと思います。

「鼓優勝十一番」の声で鳥肌が立ちました。加茂支部の皆さん有り難うございました。これからも初心に返り勉強いたします。

之助師匠から鼓は大鼓が鳴ることにより小鼓が生きてくると教えを受けました。毎朝十分間大鼓と小鼓を握り、大鼓の強音と弱音打ちに専念し大会に臨みました。

大会出場するのが永年の夢であり、まして優勝など夢の夢でした。生まれも育ちも東京、定年退職の年齢、両足膝関節の故障、前年度大会時の失敗等々優勝など及びもつきませんでした。針の穴ほどのチャンスをものに出来たとすれば、それは積み重ねた稽古と研究、それを可能にする持続した精神力だったと思いまます。終わって見れば一里塚というのが今の心境です。



**絃優勝**  
鐘推孝行  
(湖陵支部)



**鼓優勝**  
富田英好  
(加茂支部)



**踊優勝**  
棚橋保  
(東京支部)

### 先着プレゼント ご提供者

### 抽選会商品 ご提供者一覧

小川かまぼこ 様  
ギフトセンター丸新 様  
さぎの湯荘 様  
西村堂 様  
長谷川染物店 様  
安来市特産品組合 様  
安来節屋 様

(あいうえお順)

## 安来節全国優勝大会記録ビデオ

1991年～2001年の毎年3日間の競演

放送用カメラで撮影

高品位な  
映像

迫力の  
音質

VLC TEL 690-0012  
松江市古志原2丁目9-60



TEL (0852) 27-7700 FAX (0852) 26-8132 Email:vlcnet@joho-simane.or.jp

## 団体の部 優勝チーム

本部道場の  
皆さん



岩佐光恵さん 小池孝子さん 佐伯和子さん  
森広治恵さん 今岡淑子さん

広島玉美支部



広島玉実支部長

和井修一

広島玉実支部の発足は、昭和四十九年の春。設立者の（故）伊佐玉代先生は、民謡藤本流、玉実会の会主で廣島民謡連合会副会長等を歴任され、N H K のど自慢の専属伴奏者として十数年務められた方です。また、一般民謡をはじめ 安来節、端唄、小唄など幅広い師匠

でございました。安来節に  
も大変力を入れて下さいま  
して、私の入会は昭和五十  
五年の事ですが、当時はま  
だまだ会員の皆さんたちの  
多くが低段者で、私達兄弟  
のようにどうしても三味線  
のテンボに合わない生徒に  
は、三味線を休み、先生と  
生徒全員の手拍子で教えて  
頂いたものです。上級者、  
下級者の分け隔てもなく、  
和気あいあいの楽しい稽古  
をご指導されて、かなり年  
配の方でも安来節の稽古を  
とても楽しみにしておられ  
ました。

必ず上達しますからネ。」  
と励まして下さいました。  
立派な指導者の許で順風満帆と思つていました支部に、  
思いもかけない転機が訪れました。

平成二年十二月末日、師匠の伊佐玉代先生が急死されたのです。突然のこの事態に当時、事務局長の私は途方にくれたものです。病床の先生は私に「みんなで力を合わせて仲良く、しっかりやるのですよ、頑張りなさい。」とお話になり、お亡くなりになるまで支部の行く末を案じておられま

した。私たちは先生の教えのとおり、新支部長に橋氏を選出し、先輩で当時既に師範昇格者の福馬先生、岡本先生のご協力と、会員の皆さん一丸となってこの難局を乗り切りました。その間、審査会などをを行い、何かとご協力を頂いた松山支部を始めとし、広島地区の各支部、本部、知人、友人の諸先生方には、一方ならぬご指導、ご支援を賜りました。した事は言うまでもありません。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

別に十八名の師範昇格者と、教室も六ヶ所となりました。新しい会員の加入にも力を入れておられる所です。このうな現在の状況を、(故)伊佐玉代先生の墓前にご報生いたしました時の喜びは、忘れることが出来ません。

日本一の民謡安来節、一日中聞いていても飽きない、全国大会のように、三日間通しで親しんでもなお魅力一杯の安来節。

これからも微力ではございますが、支部会員一同少しでもお役に立ちたいと思っています。今後ともご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

## 支部発足と その歩み

# ひけ 歌声世界の空へ



## カーネギーホール 出演メンバー



加茂支部長

平成十三年四月、ニューヨーク市のカーネギーホールで開催された、ジャパンフェスティバルに出演しました。

います。  
ニューヨーク市はアメリカ経済の中心地であり、ますますマンハッタンは東京の西新宿を幾つも合わせた様な高層ビルが続くアメリカ最大の都市です。しかし、九月十一日発

四月二日にリハーサルを行い充分に準備を整えてから本番公演に臨みました。本番当日は天候にも恵まれ、ホテルで和服に着替え、和楽器を持参して近くのカーネギーホールに向け出発しました。その道中で外国人の人々が

カーネギーホール公演を終えて

カーネギーホールは音楽の殿堂といふれ、十八

生したテロ行為による世界貿易センターの爆破事故では多大な被害をもたらし他人事ではないショックを受けました。皮膚

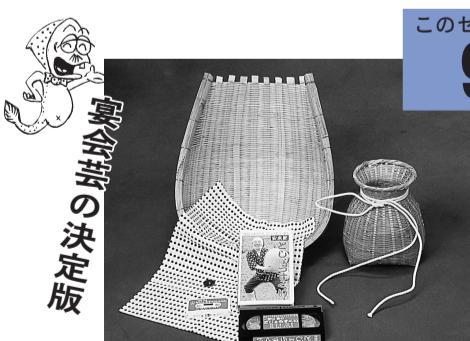
珍しい和服姿にびっくりされたり、握手を求められたり、緊張しながらわくわくする心境でした

満員状態のカーネギ  
ホールでは日本の伝統能  
能である安来節におこし

A black and white photograph capturing a traditional Japanese stage performance, possibly Noh or Kyogen. The scene is set on a stage with rich, dark wood paneling featuring intricate carvings as a backdrop. In the upper portion of the image, a male performer stands in the center, dressed in a dark, formal kimono and holding a microphone, suggesting a blend of traditional and modern elements. To his left, another performer sits on a chair, playing a three-stringed shamisen. To his right, a third performer sits on a chair, playing a four-stringed banjo-like instrument. The lower portion of the image shows the same performers seated on the stage floor, continuing their musical piece. The lighting is dramatic, highlighting the performers against the dark background.

ない拍手を頂き大きな感謝の意を込めてお詫びと申します。また、生活習慣が違つても良いとおっしゃる事で、演技に対する声援をして頂ける事が貴重な体験でした。そこで、通して良くわかり、これを機会に外国の人々ともっと日本文化の民謡に対して理解をして頂く事が出来、今後の文化交流と国際親善につながれば大変良いと痛感しました。

最後に、この度の経験を生かして今後の人生に役立てたいと強く感じますと共に、私達の公演に御協力を頂いた皆様方に感謝申し上げます。



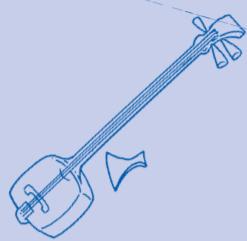
このセットで  
**9,000 円**

見ながら楽しく覚えられます。  
お手本ビデオでわかりやすく指  
導致します。  
さらに小道具（竹ざる・竹カゴ・  
お手本ビデオ「VHS」・踊り用  
カセット・豆絞り手ぬぐい・一  
文銭の鼻あて）一式 6 点セット

三達文・お問い合わせ先

〒692-0064 島根県安来市古川町467-5 さぎの湯温泉  
**TEL** (0854) 28-6788  
**FAX** (0854) 28-8688

安來節屋



# 私の安来節



指導部員  
出雲正之助

## 内弟子という修行

私が安来節を聞いたのは少年の頃です。母が民謡とか歌謡曲などが大変好きで、口ずさんでいました。難しい安来節を歌っていたので不思議に思い、どうして覚えたのか聞いてみたら、宴会の席などで祖父が歌っていたようです。しかし、祖父がどうして覚えたのかは分かりません。

そんな環境で育った私は安来節を習いたくて益田支部に入りました。昭和46年3月、辺りの山々にはまだ雪が残る良く晴れた日で、私は当時の益田支部長であった(故)波佐本静磨氏に連れられて(故)二代目出雲愛之助師匠の内弟子として入門いたしました。「禁酒・禁煙、実家へ電話する事も、掛けてくる事もいけない。」そんな約束の基に儀式が始まり、波佐本氏、伯父、両親の見守る中で師匠と盃を交わし、その瞬間から厳しい世界のスタートです。別室には関係の深い方々が集まっておられすぐに祝宴の開始です。(故)佐々木小繁お母さん(芸会の母)にご指導を仰ぎ台所と祝宴会場の間を行ったり来たりしてのお給仕。それまではそんな手伝いなどした事もなく父母の目前で恥ずかしく……しかし、その時はもう他人なのです。

師匠の教えの中で

一、芸は見て聴いて取りなさい。

一、芸事は兄弟弟子が身に付けた半分の時間で覚えなさい。とのお言葉でした。銭太鼓や鼓、男踊りは師匠達が舞台に出かけた留守中に一人で猛練習し、唄は朝の掃除の時や師匠の運転手を務める車の中で大きな声で歌って直して頂きました。日々忙しい師匠に教えて頂くのは車の中が一番でした。ですから私の道場は主に車でした。

芸事の修行で大切な事は芸を習うという事よりも芸に生きる礼儀作法を学ぶ事がありました。礼儀作法を知らずして芸は無しと今も肝に銘じております。これからも芸道に生きる喜びをかみしめ、見て下さる人、聞いて下さる人々に感動を与える芸を目指し、更に民謡文化発展の為に精進する覚悟です。今までに頂戴した多くの方々のご指導とご支援に心から厚く御礼申し上げます。



資格審査員  
原 文男

## 生涯～安来節～

私は安来節の本場安来市に隣接する伯太町で生まれ育ちました。小学校4年生の頃、父から唄と鼓を習い始め、大塚支部へ入会しました。当時村の青年団の演芸会や近くの村々の夏祭りには仁輪加があり私も出演して、「棚のぼた餅食べたいけれど私しゃ豆子で背がとわぬ」

という歌詞を唄ったことを今でも覚えています。支部の講習会で初代出雲愛之助先生より唄の指導を受け、何回唄っても一節がテンポに合わず涙が出たこともあります。

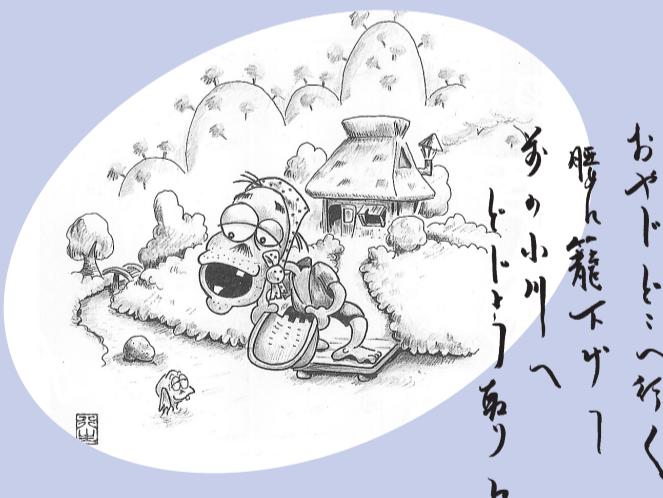
6年生で退会しましたが、昭和42年に松江支部へ再入会し、弦は三代目富田徳之助先生、踊りは初代砂川清先生の指導を受け、仕事の合間に縫っては稽古に励みました。

ある時、家内から

「たまには子供の運動会を見に行ってやりない。」などと小言を言われるほど、安来節が大好きでした。長らく続けた甲斐あって4種目全てに於いて、大師範以上を取得することができました。

現在健康にも恵まれ毎日が安来節と言っても過言ではありません。安来節を通して多方面の方々にお逢いし教える事もある事ながら、学ぶ事が多く充実した毎日を過ごしています。多くの方が「安来節は奥が深くて難しい民謡だ」と言われます。確かに4種目どれをとっても難しいのですが、そこでこそやり甲斐のある民謡だと考えます。

このような素晴らしい財産を残して頂いた諸先輩の方々に深く感謝し、私は本場の安来節を更に発展させ、多くの方が楽しめる民謡として継承して参りたいと思っております。



## 安来節家元四代目 渡部お糸襲名10周年記念公演

新曲発表  
お糸・花曆お糸様



とき 平成13年12月16日(日)

開場 午後2時 開演 午後2時30分

ところ 米子コンベンションセンター(ビッグシップ)

入場券 3,000円

主催 お糸会

お問い合わせ先 鳥取県米子市米原8-12-18 お糸会事務局 TEL 0859-35-5268

# 安来節家元四代目 渡部お祭さんと行く まつりインハワイ

世界が集う、感動と友情に出会う、環太平洋友好の祭典

旅行日：平成14年6月7日(金)  
～6月12日(水)予定

旅行代金：未定(安来・米子・関西・成田空港発着)  
募集人員：30名(最少催行人員20名)



(前回、平成12年に出演した時の様子)

添乗員同行

お問い合わせ先 近畿日本ツーリスト 松江支店  
TEL 0852-22-4893 担当 竹安

## 掲示板

安来節保存会大東支部は今年設立五十周年を迎えましたが、奇しくも大東町も町村合併により今の大東町となり五十年であります。支部ではこの事について昨年暮から相談をし、本年唄い初めの総会で実行委員会を設置して準備を進めてきました。

祝賀会には会長はじめ町長、出身県議他各種団体から、また、保存会の出席、祝辞を頂き開催出来ました。

安来節保存会大東支部は資格審査長二代目安達順吉先生の音頭による乾杯、民謡歌手としてご活躍のご存じ梅若朝啄さんの三味線弾き語り「さんさ時雨」で幕を開け、大東支部の記念出演を三代目出雲愛之助、上代茂則、兩先生の安来節。

続いて特別出演に、ご来賓の松浦保潔、出雲俊之助、伊藤芳男、上代安夫、伊藤

仲前長治の各先生が自慢ののどを担当

支部応援者、富田とみお、二代目渡田

部音吉先生の絃、鼓にあわせて次から次とアンコールの連続と盛り上がり、宴も佳境に。



この後は自由出演の時間とし、大東支部自慢のどじょう掬い踊りのオンドレードを披露、関西支部より参加の岩崎美智子さんの「俵積み唄」もとび出し会員始めの七十余人が一体となって手拍子をくり、拍手喝采により万歳三唱を続行いお開

うちに二代目渡部音吉先生の音頭を聴かに行きました。

現在会員の全国優勝大会師範の部、優勝旗二十一本の深紅の優勝旗で彩られた、大東町農村環境改善センター優勝旗二十一本の桂莊」を舞台として挙行しました。

最後になりましたが紙上を拝借致しまして、保存会はじめ各種団体、個人の皆様のご支援ご協力に対し厚く御礼申し上げ報告と致します。

大東支部設立五十周年記念祝賀会実行委員会



## 事務局からのお知らせ

◆ 全国優勝大会	◆ 優勝大会地区予選会	◆ 師範昇格審査会
6月15日(木)～17日(土) 午前9時より・安来市民体育館	6月16日(日) 午前9時より・岡山地区 午前9時より・米子地区	6月16日(日) 午前10時より・安来公園(演舞場)
6月17日(日) 午前9時より	6月17日(日) 午前9時より・益田地区 午前9時より・広島地区 午前9時より・石見・浜田地区	6月17日(日) 午前10時より・安来市民会館
6月18日(月) 午前9時より	6月18日(月) 午前9時より	5月12日(日) 午前10時より・安来市民体育館
6月19日(火) 午前9時より	6月19日(火) 午前9時より	5月19日(日) 午前10時より・安来市民会館
6月20日(水) 午前9時より	6月20日(水) 午前9時より	5月26日(日) 午前10時より・安来市民会館
6月21日(木) 午前9時より	6月21日(木) 午前9時より	6月2日(日) 午前10時より・安来市立中央公民館
6月22日(金) 午前9時より	6月22日(金) 午前9時より	5月27日(日) 午前10時より・安来市民会館
6月23日(土) 午前9時より	6月23日(土) 午前9時より	5月28日(日) 午前10時より・安来市民会館
6月24日(日) 午前9時より	6月24日(日) 午前9時より	5月29日(日) 午前10時より・安来市民会館
6月25日(月) 午前9時より	6月25日(月) 午前9時より	5月30日(日) 午前10時より・安来市民会館
6月26日(火) 午前9時より	6月26日(火) 午前9時より	5月31日(日) 午前10時より・安来市民会館
6月27日(水) 午前9時より	6月27日(水) 午前9時より	6月1日(月) 午前10時より・安来市民会館
6月28日(木) 午前9時より	6月28日(木) 午前9時より	6月2日(火) 午前10時より・安来市民会館
6月29日(金) 午前9時より	6月29日(金) 午前9時より	6月3日(水) 午前10時より・安来市民会館
6月30日(土) 午前9時より	6月30日(土) 午前9時より	6月4日(木) 午前10時より・安来市民会館
7月1日(日) 午前9時より	7月1日(日) 午前9時より	6月5日(金) 午前10時より・安来市民会館
7月2日(月) 午前9時より	7月2日(月) 午前9時より	6月6日(土) 午前10時より・安来市民会館
7月3日(火) 午前9時より	7月3日(火) 午前9時より	6月7日(日) 午前10時より・安来市民会館
7月4日(水) 午前9時より	7月4日(水) 午前9時より	6月8日(月) 午前10時より・安来市民会館
7月5日(木) 午前9時より	7月5日(木) 午前9時より	6月9日(火) 午前10時より・安来市民会館
7月6日(金) 午前9時より	7月6日(金) 午前9時より	6月10日(水) 午前10時より・安来市民会館
7月7日(土) 午前9時より	7月7日(土) 午前9時より	6月11日(木) 午前10時より・安来市民会館
7月8日(日) 午前9時より	7月8日(日) 午前9時より	6月12日(金) 午前10時より・安来市民会館
7月9日(月) 午前9時より	7月9日(月) 午前9時より	6月13日(土) 午前10時より・安来市民会館
7月10日(火) 午前9時より	7月10日(火) 午前9時より	6月14日(日) 午前10時より・安来市民会館
7月11日(水) 午前9時より	7月11日(水) 午前9時より	6月15日(月) 午前10時より・安来市民会館
7月12日(木) 午前9時より	7月12日(木) 午前9時より	6月16日(火) 午前10時より・安来市民会館
7月13日(金) 午前9時より	7月13日(金) 午前9時より	6月17日(水) 午前10時より・安来市民会館
7月14日(土) 午前9時より	7月14日(土) 午前9時より	6月18日(木) 午前10時より・安来市民会館
7月15日(日) 午前9時より	7月15日(日) 午前9時より	6月19日(金) 午前10時より・安来市民会館
7月16日(月) 午前9時より	7月16日(月) 午前9時より	6月20日(土) 午前10時より・安来市民会館
7月17日(火) 午前9時より	7月17日(火) 午前9時より	6月21日(日) 午前10時より・安来市民会館
7月18日(水) 午前9時より	7月18日(水) 午前9時より	6月22日(月) 午前10時より・安来市民会館
7月19日(木) 午前9時より	7月19日(木) 午前9時より	6月23日(火) 午前10時より・安来市民会館
7月20日(金) 午前9時より	7月20日(金) 午前9時より	6月24日(水) 午前10時より・安来市民会館
7月21日(土) 午前9時より	7月21日(土) 午前9時より	6月25日(木) 午前10時より・安来市民会館
7月22日(日) 午前9時より	7月22日(日) 午前9時より	6月26日(金) 午前10時より・安来市民会館
7月23日(月) 午前9時より	7月23日(月) 午前9時より	6月27日(土) 午前10時より・安来市民会館
7月24日(火) 午前9時より	7月24日(火) 午前9時より	6月28日(日) 午前10時より・安来市民会館
7月25日(水) 午前9時より	7月25日(水) 午前9時より	6月29日(月) 午前10時より・安来市民会館
7月26日(木) 午前9時より	7月26日(木) 午前9時より	6月30日(火) 午前10時より・安来市民会館
7月27日(金) 午前9時より	7月27日(金) 午前9時より	6月30日(水) 午前10時より・安来市民会館
7月28日(土) 午前9時より	7月28日(土) 午前9時より	6月30日(木) 午前10時より・安来市民会館
7月29日(日) 午前9時より	7月29日(日) 午前9時より	6月30日(金) 午前10時より・安来市民会館
7月30日(月) 午前9時より	7月30日(月) 午前9時より	6月30日(土) 午前10時より・安来市民会館
7月31日(火) 午前9時より	7月31日(火) 午前9時より	6月30日(日) 午前10時より・安来市民会館
8月1日(水) 午前9時より	8月1日(水) 午前9時より	6月30日(月) 午前10時より・安来市民会館
8月2日(木) 午前9時より	8月2日(木) 午前9時より	6月30日(火) 午前10時より・安来市民会館
8月3日(金) 午前9時より	8月3日(金) 午前9時より	6月30日(水) 午前10時より・安来市民会館
8月4日(土) 午前9時より	8月4日(土) 午前9時より	6月30日(木) 午前10時より・安来市民会館
8月5日(日) 午前9時より	8月5日(日) 午前9時より	6月30日(金) 午前10時より・安来市民会館
8月6日(月) 午前9時より	8月6日(月) 午前9時より	6月30日(土) 午前10時より・安来市民会館
8月7日(火) 午前9時より	8月7日(火) 午前9時より	6月30日(日) 午前10時より・安来市民会館
8月8日(水) 午前9時より	8月8日(水) 午前9時より	6月30日(月) 午前10時より・安来市民会館
8月9日(木) 午前9時より	8月9日(木) 午前9時より	6月30日(火) 午前10時より・安来市民会館
8月10日(金) 午前9時より	8月10日(金) 午前9時より	6月30日(水) 午前10時より・安来市民会館
8月11日(土) 午前9時より	8月11日(土) 午前9時より	6月30日(木) 午前10時より・安来市民会館
8月12日(日) 午前9時より	8月12日(日) 午前9時より	6月30日(金) 午前10時より・安来市民会館
8月13日(月) 午前9時より	8月13日(月) 午前9時より	6月30日(土) 午前10時より・安来市民会館
8月14日(火) 午前9時より	8月14日(火) 午前9時より	6月30日(日) 午前10時より・安来市民会館
8月15日(水) 午前9時より	8月15日(水) 午前9時より	6月30日(月) 午前10時より・安来市民会館
8月16日(木) 午前9時より	8月16日(木) 午前9時より	6月30日(火) 午前10時より・安来市民会館
8月17日(金) 午前9時より	8月17日(金) 午前9時より	6月30日(水) 午前10時より・安来市民会館
8月18日(土) 午前9時より	8月18日(土) 午前9時より	6月30日(木) 午前10時より・安来市民会館
8月19日(日) 午前9時より	8月19日(日) 午前9時より	6月30日(金) 午前10時より・安来市民会館
8月20日(月) 午前9時より	8月20日(月) 午前9時より	6月30日(土) 午前10時より・安来市民会館
8月21日(火) 午前9時より	8月21日(火) 午前9時より	6月30日(日) 午前10時より・安来市民会館
8月22日(水) 午前9時より	8月22日(水) 午前9時より	6月30日(月) 午前10時より・安来市民会館
8月23日(木) 午前9時より	8月23日(木) 午前9時より	6月30日(火) 午前10時より・安来市民会館
8月24日(金) 午前9時より	8月24日(金) 午前9時より	6月30日(水) 午前10時より・安来市民会館
8月25日(土) 午前9時より	8月25日(土) 午前9時より	6月30日(木) 午前10時より・安来市民会館
8月26日(日) 午前9時より	8月26日(日) 午前9時より	6月30日(金) 午前10時より・安来市民会館
8月27日(月) 午前9時より	8月27日(月) 午前9時より	6月30日(土) 午前10時より・安来市民会館
8月28日(火) 午前9時より	8月28日(火) 午前9時より	6月30日(日) 午前10時より・安来市民会館
8月29日(水) 午前9時より	8月29日(水) 午前9時より	6月30日(月) 午前10時より・安来市民会館
8月30日(木) 午前9時より	8月30日(木) 午前9時より	6月30日(火) 午前10時より・安来市民会館
8月31日(金) 午前9時より	8月31日(金) 午前9時より	6月30日(水) 午前10時より・安来市民会館
9月1日(土) 午前9時より	9月1日(土) 午前9時より	6月30日(木) 午前10時より・安来市民会館
9月2日(日) 午前9時より	9月2日(日) 午前9時より	6月30日(金) 午前10時より・安来市民会館
9月3日(月) 午前9時より	9月3日(月) 午前9時より	6月30日(土) 午前10時より・安来市民会館
9月4日(火) 午前9時より	9月4日(火) 午前9時より	6月30日(日) 午前10時より・安来市民会館
9月5日(水) 午前9時より	9月5日(水) 午前9時より	6月30日(月) 午前10時より・安来市民会館